

令和5年度 逗子の地域医療検討会 中間とりまとめ

逗子市内に病院ができる可能性として考えられるのは
回復期～慢性期の機能を持つ病院である。

高齢化による医療ニーズの変化

- ・高齢者人口が増加し、脳梗塞、心不全、肺炎や骨折、認知症など治療して終わりとはならない疾病が増加する。そのため、病気と付き合いながら生活をする事になり、リハビリや重症化予防などに対応できる回復期を中心とした医療提供体制が必要となる。

高度急性期～急性期医療の充実

- ・逗子市の近隣には湘南鎌倉総合病院や横須賀共済病院など、高度急性期～急性期の機能を持つ病院が複数あり、病院の機能分化とアライアンス(連携)が進んでいる。

横須賀・三浦地区二次医療圏における医療資源の状況

- ・二次医療圏内においては、回復期を担う病床が不足している。
- ・医師の働き方改革など、医療職の人材確保が困難となっている。

今後考える必要がある内容は
地域で支える医療についてである。

社会的要因

- ・人口減少や、少子高齢化などにより、医療・福祉職の人材確保も課題であり、今ある資源を有効に活用する必要がある。

地域包括ケアシステムの充実

- ・医療、介護、住まい、生活支援、介護予防など包括的に支援する地域包括ケアシステムをさらに充実させていくことが重要である。

情報連携・情報提供

- ・市民の知りたい情報、市民に伝えたい情報を整理したうえでの情報発信について考えていく必要がある。
- ・在宅医療 在宅で可能な医療行為が広がることにより、これまで入院が必要だった人が訪問診療や訪問看護などを利用しながら在宅生活を送っている。地域で安心して生活ができるよう、医療と介護の情報連携を進める必要があることなど、まずは在宅医療について広く市民に理解してもらうことが重要である。
- ・小児医療 少子化により限られた資源を有効に使うことが必要である。そのために、夜間などはオンラインの活用や相談できる窓口、また親が学ぶ機会など子育てをする親が安心できるようなタイムリーな情報の提供が必要である。

これまでの逗子の地域医療検討会で出た主な意見

【病院について】

- ・市内に中核的な病院が欲しい。何かあったときに、そこに行けば大丈夫、というような中核的な病院が良い。そのような病院であれば災害時などにも安心である。
- ・病院はあった方が良くと思うが、将来を見据えた医療ニーズなどもふまえ、継続することも考えていく必要がある。今の逗子にそれができるだろうか。
- ・市民にとって病院が遠いことは交通費も負担となるため、通院しやすい距離だと安心である。
- ・国の方針などから考えて、基本的に「総合」とつくような病院ができないのは確かで、役割分担（急性期や回復期に特化した病院、あるいは在宅医療）というような形の流れになってきている。
- ・新しい病院を作るという考え方だけではなく、地域のクリニックを集めるなど病院の機能を集約できる場所があれば、病院の代わりになるのではないか。
- ・かかりつけ医と専門医をオンラインでつなぐ形があると、地元でも専門医の意見をもらいながら治療ができ、患者の安心につながるのではないか。また、そういうものをサポートする場所や仕組みがあれば患者にも医療機関にも負担がかからないのではないか。
- ・適切な判断と必要に応じて別の医療機関につなぐなど、地域の病院と連携しているシステムが必要。

【地域で支える医療について】

- ・病院が難しいのであれば訪問看護、訪問診療のシステムを充実させていく方が良いのではないか。
- ・医療的ケアが必要な方も様々なサービスを利用しながら在宅で生活をしているが、介護力の問題が課題となり在宅生活を継続できない方もいる。
- ・これからの医療を考えると高齢化や少子化など課題があるが、考え方を切り替えるよいチャンスととらえてはどうか。
- ・効率化や付加価値のあるサービス等の工夫について情報の集約化と整理をすることで解決できないか。情報が市民の目につくようにすることは重要である。（市の LINE は頻度高く更新もされており、市民の目につきやすい有効なツールである）
- ・市民ができるだけ健康に過ごせるような予防についても考えていく必要がある。
- ・横須賀・三浦地区二次医療圏と周辺の医療機関（歯科、薬局を含む）や介護施設等で医療・介護情報を共有する地域医療介護連携システム（EHR）が令和6年8月に稼働する予定である。病院、地域の医療機関、介護施設等が同意を得られた住民の医療介護情報を共有できる仕組みで、通常の医療介護の連携はもとより、救急時や災害時などにも有効である。
- ・小児については、ある程度今の体制でも対応できる仕組みはあると思う。その前提として、子育て中の親が安心できるような情報の提供、相談窓口の設置等について改めて整理し、足りない部分があれば検討していく必要があるのではないか。